

石狩地区 新規就農者紹介



悠さんと父親の英樹さん

【就農までの経緯】

高校進学時は農業高校ではなく普通科の高校に進学しており、その時点で就農は考えていませんでした。しかし、高校卒業後の進路を考える中で、他の兄弟が跡継ぎを希望していなかったことから、父の経営する農場を誰も継がないのはもったいないと考え、農業を勉強することになりました。

高校卒業後、北海道農業大学校に入校し、同校が稲作の研修部門を委嘱している拓殖大学北海道短期大学で勉強した後、2025年4月に就農しました。また、この少し前のタイミングで農場を法人化したので、就農と同時に役員となりました。

(株)いなむら農場 (当別町)

2025年8月取材

稲村 悠さん

就農年:2025年4月(親元就農)

経営形態:水稻作と畑作との複合経営

作物:水稻、小麦、大豆、なたね

【就農後の働き方】

日々の農作業は父から教えてもらっていますが、忙しくなるとなかなか父親から明確な指示がありません。その場合は何でもいいので自らやるべきことを探して作業をしています。

父親と一緒に晩御飯を食べますが仕事の話はあまりないので、自分から話をする必要があると感じています。他の若手農業者から、親との会話が足りず衝突した際に、朝のコーヒータ임やおやつタイムを設け、その中で打合せをすることで円滑に作業等が進むようになったと聞いたので、参考にしたいと思っています。



【さまざま農業機械を所有しており、操作を覚えるのも大変です】

【就農して感じたこと】

今年の4月に就農したばかりで実感はまだありません。若い自分に声をかけてくれる方は「農業は楽しい」「やりがいのある仕事」など前向きな話をされますが、正直、楽しさまでは今のところ実感できていません。これからいろいろな経験を積むことで、楽しさがわかってくるものと思っています。



【順調に生育している水稲】

【工夫している点】

営農日記を毎日つけており、作業の振り返りや翌日の計画の参考としています。

以前は、学生時代に研究していた加工用とうもろこしの栽培に取り組んでいました。当時は、生育状況を把握しながら試行錯誤を繰り返していました。

【周囲からのサポート】

4Hクラブ（農業青年クラブ）やJA青年部に加入して、同世代の方と悩み事を共有したり、年上の方からは、いろいろなアドバイスをいただいています。

また、父が若い時にお世話になった普及指導員が農業改良普及センターの支所長として戻ってこられたので、親子2代に渡ってお世話になっています。

【今後の展望】

自分ひとりでできる作業を増やしていきたいです。今年の経験をもとに来年できることを増やしていきます。

【活用した補助事業等】

・就農準備資金

就農に向けて必要な技術等を修得する研修期間中の49歳以下の研修生に交付

交付額：12.5万円/月（150万円/年）を最長2年間

【就農を目指している方へアドバイス】

1年で全ての農作業を覚えることは無理だと思います。1年目は研修期間と捉え、作業を覚えるまでには2～3年かかるものと思って、焦らずじっくりと取り組んでいった方がいいと思います。

【経営者（父：英樹さん）からのお話】

英樹さん自身は、農業に全く関係のない民間企業で数年間働いた後に就農されたそうです。

農業のみ経験している人は、農業の大変さを言いますが、英樹さんは民間企業の厳しさも知っているので、大変さよりやりがいのある魅力的な職業と仰っていました。

このことから、悠さんは農業大学校卒業と同時に就農されたので、農業の厳しさばかりを感じるのではと心配されていました。

また、英樹さんもコミュニケーションの取り方や作業指示に不慣れの点もあり、苦慮されていた様子でしたが、とにかく1年目は細かい作業より1年間の全体的な作業の流れを理解して欲しいと仰っていました。



【ドローンについて説明する英樹さん】